

FULL HEIGHT DOOR®

STEALTH MODE ステルス枠

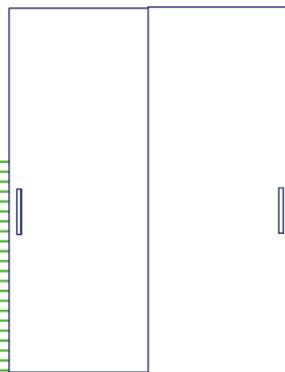
フルハイトドア

# 施工手順書

クローゼット【物入 2 枚引違い戸タイプ】

クローゼット

物入 2 枚引違い戸タイプ



# 施工を担当される方へ

安全のために必ずお守りください



**注意**

## ● 施工前にこの手順書をよく読み、正しく施工してください

- 枠・下地枠の取付は、水平・垂直・ねじれがないかを必ずご確認し、確実な固定を行ってください。
- 本製品の組み立てで付属ビスがある場合には、必ずそのビスを使用してください。  
付属ビス以外で取り付けした場合、部材の脱落や枠のゆるみ等が発生する恐れがあります。



## ● ケガや事故防止のため、以下の事項を必ずお守りください

- 風の強い場所では開き戸が強く閉まるなどして手をはさむ恐れがありますので、扉を開け放しにしないようご注意ください。
- 運搬作業時は滑り止めの手袋を着用し、扉建て付け時には十分気をつけて行ってください。



## ● 施工前及び施工時の確認

- 本製品は屋内用ですので、屋外や水がかりする箇所には使用しないでください。
- 本製品は内装扉を用途とする商品です。他の用途として使用したり、本手順書と異なった施工をした場合の保障は当社では責任を負いかねます。
- 高温・高湿の環境条件では使用できません。
- 施工前に部材の数量・キズの有無をご確認ください。  
施工後のキズについては当社では責任を負いかねます。
- 部材を保管する場合は湿気・直射日光を避け、十分な養生をしてください。
- 開口部または枠の寸法を測り、躯体または枠が正確に施工されているか、ご用意の扉サイズが適切かどうかご確認願います。
- 施工時に電動ドライバーを使用する場合は、カラモミを防ぐため最後の締め付けは必ず手締めにて行ってください。
- 扉の調整の際には、電動ドライバーは絶対に使用しないでください。  
ビス類が破損し、調整できなくなることがあります。
- 扉や枠の表面に、長時間テープを貼らないでください。汚れ・破損・色ムラの原因になります。  
また、突き板塗装ドアの場合、塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。

## ● 施工後の処理

- お施主様への引渡し前に、工事管理者が必ず点検を行い、不具合箇所を補修してください。
- 施工後はキズが付かないように養生してください。  
このとき、表面にテープを直接貼らないでください。  
また、突き板塗装ドアの塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。
- 清掃の際は水を固く搾った布で汚れを落とした後、柔らかい布で乾拭きしてください。  
また、汚れが落ちにくい場合は、薄めた中性洗剤で汚れを落とした後、洗剤が残らないようによく拭き取ってください。
- 内装工事が終了するまでの間は、扉をはずして保管されることをお勧めします。

# □物入れ2枚引違い戸(上吊)

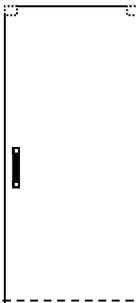
forステルス枠

施工手順書2014/12

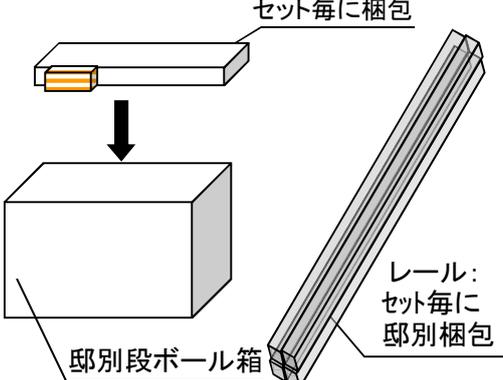
改訂2017/1

## ■ 製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

建具			ゴム戸当り			
部材	数量	備考	 各1ヶ	※1セット建具金物箱に同梱		
引き戸	2枚	引手取付済み 固定カップ取付済み				
			同			
			梱			
			品			

下地枠			施工手順書			
部材	数量	備考		同		
縦枠下地	2本					
上枠下地	1本					
開口定規	1本	下地枠内寸法用	梱			
			品			

下地金物箱			引戸レール	上部吊車	ストッパー	下部ガイド			
部材	数量	備考	 2本(付属ビス含む)	 4ヶ	 4ヶ	 2ヶ			
金物箱	1式								
レール	1式		調整ビス						
 セット毎に梱包 レール: セット毎に 邸別梱包 邸別段ボール箱			同						
			梱	 1セット <table border="1" data-bbox="853 1870 973 1937"> <tr> <td>H21</td> <td>24本</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>28本</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>28本</td> </tr> </table>	H21	24本	H24	28本	H26
H21	24本								
H24	28本								
H26	28本								
			品						

# □物入れ2枚引違い戸(上吊)

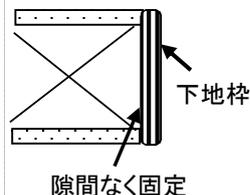
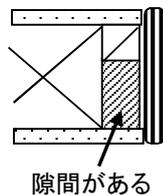
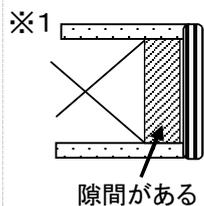
forステルス枠

施工手順書2014/12

改訂2017/1

## 1 施工前の確認事項

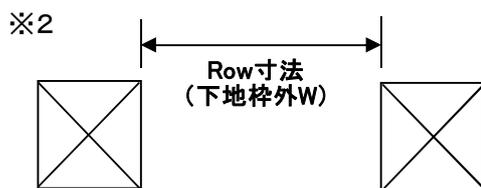
- ① 下地枠を取り付ける前に、開口部の巾（図面：ROW寸法）と高さ（図面：床仕上～開口高さ）の確認をして下さい。（縦枠下地は床仕上げ面からの立ち上がりとなっているので注意して下さい）



×

×

○



図面上のRow寸法（下地枠外W）の確認

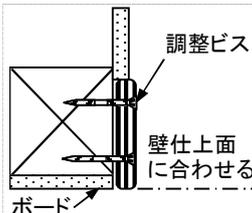


注意

- ※1 下地枠は躯体（構造材）に取り付けますので、下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいて下さい。  
 ※2 施工前のW寸法確認は、図面上のRow寸法（下地枠外W）を確認してください。  
 ※開口部（柱・まぐさ等）の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で精度を十分に確認して下さい。

## 2 縦枠下地の取り付け

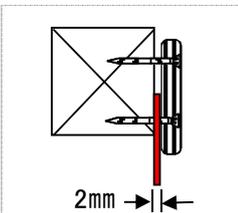
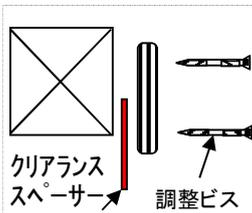
- ① 縦枠下地を柱に固定します。枠の位置は壁仕上面（ボード面）に合わせて、レーザー等で立ちを見ながら同梱されている調整ビスにて枠の固定を行ってください。



調整ビスにより枠を固定

ビスは枠より飛び出さないように固定、及び調整を行ってください。

- ② 取り付けの際に調整ビスの中に同梱されているクリアランススペーサー(2mm)を躯体と枠の間に入れクリアランスを保ちビス固定を行ってください。（図面寸法：躯体と縦枠下地のクリアランスは2mm）また 縦枠下地の裏側下部にあらかじめ2mmのパッキン材がついています。



クリアランス  
スペーサーを挟む

2mmのクリアランスを保ち調整ビスにより枠固定

あらかじめ縦枠下地の裏側下部に2mmのパッキン材がついている

注意

- ※縦枠下地の下部裏側にあらかじめ2mmのパッキン材が取付けてありますので枠内寸法が確保出来ない場合以外は外さないで下さい。  
 ※クリアランススペーサーが抜けない場合は手動ドライバーにて少しゆるめて外して下さい。  
 ※躯体がスタッドの場合や石膏ボードに直接縦枠下地を取付けると調整ビスがきかないので、必ず間に木材（15mm以上）を入れて下さい。  
 ※調整ビスを何度も出し入れすると、ビス穴が広がり調整がきかなくなる可能性があるため、その際は別の所で再度取付けを行ってください。

# □物入れ2枚引違い戸(上吊)

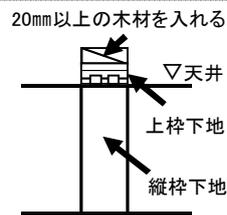
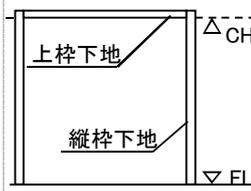
forステルス枠

施工手順書2014/12

改訂2017/1

## 3 上枠下地の取り付け

- ① 上枠下地を接着剤・取り付けビス(現場手配)併用にてまぐさに固定します。上枠下地の取り付け位置は縦枠と同じ位置に取り付けてください。  
(縦勝ちに納まります)  
その際上枠下地の裏側には20mm以上の木材を入れてください。

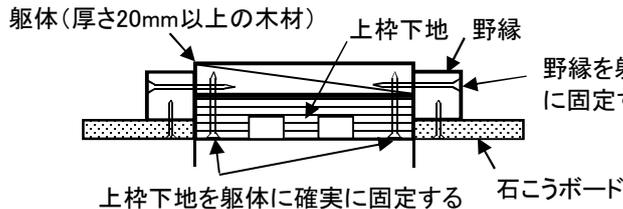


下地裏面に接着剤全面塗布

縦枠勝ちに納める

上枠下地の裏には20mm以上の木材を入れる。

- ② 上枠下地と石膏ボードを連続して納める場合、野縁を躯体にしっかりと固定します。その際、石膏ボードの厚さを確保してください。その後、石膏ボードを上枠下地に合わせて野縁に固定してください。



野縁を躯体に確実に固定する

石膏ボードの厚さを確保して、野縁を躯体に固定  
その後、野縁に石膏ボードを取付ける



- 注意**
- ※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布して下さい。(許ビスをお奨めします)
  - ※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めて下さい。
  - ※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにして下さい。またその際レールビスと干渉しない位置にビス止めを行ってください。
  - ※上枠下地の裏側には、必ず20mm以上の木材を入れてください。
  - ※野縁は躯体にしっかりと固定してください。上枠下地が固定されている躯体に野縁が固定されていないと、クロス割れ、よれ、塗り壁の割れの原因となります。
  - ※縦枠下地の天井のみ込み部分は、ボードの厚み部分の欠き込みを行ってください。

## 4 縦枠下地の調整・クサビまたはパッキン材固定

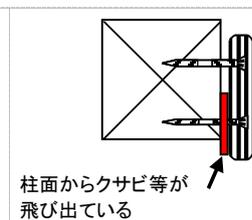
- ① 下地枠の取り付けが終わったら、同梱品の開口定規にて下地枠内W寸法の確認をして下さい。調整が必要な時は手動ドライバーで縦枠下地の出し入れを行って下さい。



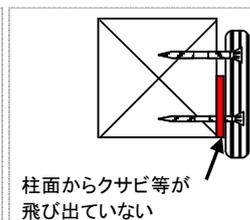
下地材内の開口定規にて開口を確認

下地枠内寸法の確認

- ② ビスでの取り付け・調整が終わったら、縦枠下地と躯体の間にクサビ又はパッキン(現場手配品)を接着剤併用にて入れて固定して下さい。



柱面からクサビ等が飛び出ている



柱面からクサビ等が飛び出していない

クサビまたはパッキンの表裏に接着剤を塗布し、縦枠下地と躯体の間に差込む

クサビ又はパッキンの入れ方 **×**

クサビ又はパッキンの入れ方 **○**

- 注意**
- ※ウォールスルーが並列する場合や、その他納まりでビスがはみ出してしまう恐れがある場合については、別のビス(現場手配品)にて取り付けを行って下さい。
  - ※クサビ又はパッキンは、ビスとビスの間にレーザー等で立ちを見ながら行ってください。
  - ※クサビ又はパッキンが柱面から飛び出していると、石膏ボードの取り付けができないので、柱面からクサビ又はパッキンが飛び出さないようにして下さい。

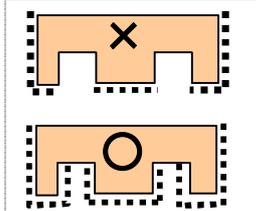
# □物入れ2枚引違い戸(上吊)

forステルス枠

施工手順書2014/12

改訂2017/1

## 5 巾木・クロス施工(塗り壁の場合 別紙塗り壁仕様参照)

<p>① 巾木を接着剤にて縦枠下地の欠き込み部分にはめ込むように取り付けてください。(接着剤は酢ビ系をお奨めします)</p>				
	<p>接着剤全面塗布</p>	<p>下地の巾木欠き込み部分(7×30)</p>	<p>下地の欠き込み部分にはめ込む様に取り付け</p>	
<p>② パテ等の下地処理をした後で、クロスを貼って下さい。(メッシュ→下塗り→上塗りをお奨めします)</p>				
	<p>メッシュテープ貼り</p>	<p>パテ処理</p>	<p>上枠下地のクロス貼り</p>	<p>クロス貼り方</p>
<p><b>注意</b></p>	<p>※出荷時には、シンプル巾木の欠き込み(7×30)がされています。30mm以上の巾木をご使用の場合は、現場にて高さ方向の切り欠きを行ってください。(巾木厚さ7mm以上の対応は行っていません)                  ※上枠下地のレール溝部分はクロスを貼り伸して、レール溝に巻き込んでください。</p>			

## 6 引戸レールの取り付け

<p>① 引戸レールを取り付ける際、戸先側、戸尻側の向きはありません。(トリガーの取付け穴加工なし)レールは別途梱包にあります。</p>				
	<p>レールの戸先側、戸尻側の向きなし</p>			
<p>② 上部吊車をレール内部に入れてください。(突起がある方が内側)付属のレール取付ビスで、レールを固定してください。</p>	 <p>突起がある方が内側</p>			
	<p>吊車をレールに入れる</p>	<p>レールを上枠下地に取り付け</p>		
<p><b>注意</b></p>	<p>※吊車の向きに注意して下さい。(突起がある方が内側)</p>			

# □物入れ2枚引違い戸(上吊)

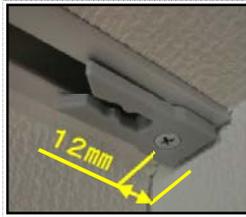
forステルス枠

施工手順書2014/12

改訂2017/1

## 7 ストッパー・床付ガイドの取り付け

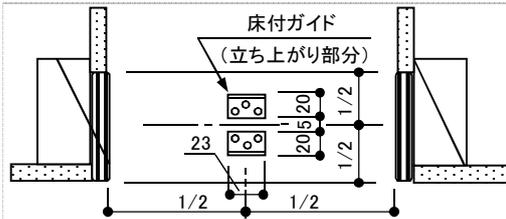
- ① ストッパーをレールの戸尻側に取り付けます。(レール端部からストッパーのビスセンターまで12mmの所に取り付けてください。) 金物は別途金物箱にあります。



ストッパーの取り付け

最後の締め付けは  
手動ドライバー

- ② 床付ガイドを床に取り付けます。立ち上がり部分がそれぞれ外側に向くように取り付けます。金物は別途金物箱にあります。



下部ガイドの取り付け  
(立ち上がり部分を外側に向ける)



最後の締め付けは  
手動ドライバー

**注意**

- ※ストッパーはレールにつめがかかるようにして締め付けてください。
- ※締め方が弱いと、建具の開閉時にストッパーが動いてしまうことがありますので注意して下さい。
- ※ビスを締め付けすぎるとストッパーが破損しますので、最後の締め付けは必ず手動ドライバーで強めに行ってください。

## 8 建具の吊り込み・上部吊車での調整

- ① 建具下のガイド溝から床付ガイドに建具を差し込みます。その後、建具を起こしていきながら、建具上部の固定カップとレール内にある上部吊車を連結し、吊り込み完了です。



下部ガイドを建具溝に  
差し込む



固定カップと上部吊り車を  
連結する



パチンの音を確認。

- ② 吊り込み後に、上部吊車で調整をする際上下調整は、下側のネジ左右調整は、上側のネジにて手動ドライバーで行ってください。



上部吊り車の調整

【調整範囲】  
上下方向±3.0mm  
前後方向±2.0mm

**注意**

- ※上部吊車と固定カップはパチンと音が鳴るまで連結させて下さい。最後まで入っていないと使用中外れる恐れがあります。
- ※吊車を取り外す際、素手では外れない場合 プライヤー等工具を使用し取り外してください。
- ※調整の際に電動ドライバーは使用しないで下さい。

# □物入れ2枚引違い戸(上吊)

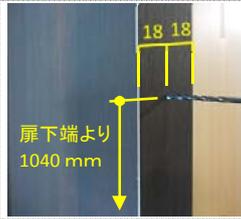
forステルス枠

施工手順書2014/12

改訂2017/1

## 9 ゴム戸当りの取り付け

- ① 2枚ある扉のうち内部側の扉であることを確認し、戸尻側木口部（扉下端より1040mm、扉厚中央）の位置にφ2.5の下穴を開け、ゴム戸当りをビス固定してください。

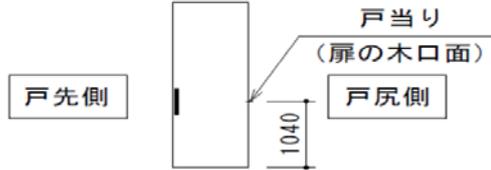


所定の位置にφ2.5の下穴を開ける

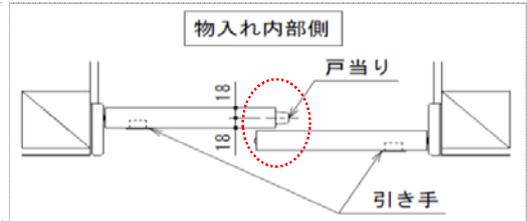
ゴム戸当りを取り付け

最後の締め付けは手動ドライバー

内部側の扉



取り付け位置 (その1)  
＜内部側扉の姿図＞



取り付け位置 (その2)  
＜横断面納まり図＞

**注意**

- ※取り付け位置は、1) 物入れ内部側の扉、2) 戸尻木口面（扉下端より1040mm（引き手の中央）、扉厚中央）になります。
- ※取り付け位置に下穴はありませんので、位置出しを行ってください。
- ※扉の高さが低い場合は、現場にて取付位置の調整をしてください。

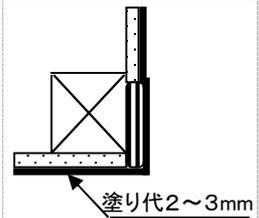
# □ 塗り壁仕様施工方法

forステルス枠

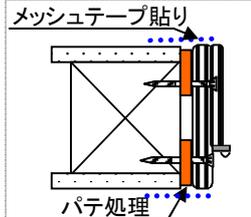
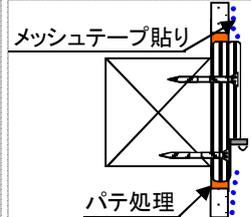
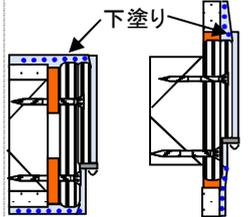
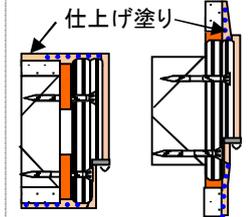
施工手順書2014/12

改訂2017/1

## 1-1 共通事項

<p>① 枠の取付け・調整、クサビまたはパッキンの固定が終わったら、巾木を接着剤にて縦枠下地の欠込み部分にはめ込むように取り付けてください。(接着剤は酢ビ系をおすすめします)</p>				 <p>塗り代2~3mm</p>
	<p>接着剤全面塗布</p>	<p>下地の巾木欠き込み部分(4×30)</p>	<p>下地の欠き込み部分にはめ込む様に取り付け</p>	<p>塗り代2~3mm</p>
<p><b>注意</b></p> <p>※出荷時には、巾木の欠き込みはクロス仕様よりも3mm浅く(4mm)欠き込んであります。(巾木の厚み7mm以上の対応は行っておりません)</p> <p>※塗りの厚みは2~3mmの設定になっているため、受金物もクロス仕様より2~3mm出っ張るよう加工されています。</p> <p>※天井はクロス貼り、下り壁は塗り仕上げの仕様となります。(下り壁仕上げ面の塗りの厚みは1.5mm以内となります)</p>				

## 1-2 共通事項

<p>③ 受金物の取り付けが終わったら、受金物・樹脂見切り・金物台座・巾木・見切縁等に隙間がないように養生を確実にし、石膏ボードと枠の隙間・ビス部分にメッシュテープを貼った後、パテ等の下地処理(2度塗り推奨)を行ってください。</p>		 <p>メッシュテープ貼り パテ処理</p>	 <p>メッシュテープ貼り パテ処理</p>	
	<p>受金物等に養生</p>	<p>メッシュテープ貼り及びパテ処理(下地処理) (2度塗り推奨)</p>		
<p>④ 石膏ボードと枠をまたぐようにメッシュテープ(100mm巾を推奨)を貼ってパテ処理をした後、下塗り材(アク止め入り)をムラなく塗り、1~2日乾燥させてください(漆喰の場合は2度塗り)。その後、仕上げ材をムラなく塗り、3~4日乾燥させてください。</p>	 <p>下塗り</p>	 <p>仕上げ塗り</p>		
<p><b>注意</b></p> <p>※ウォールスルーはガラスの押え縁を見切りに塗ってください。</p> <p>※受金物・樹脂見切り・金物台座・巾木・見切縁等は出の寸法が異なりますのでみ打さないよう注意して塗ってください。</p> <p>※片開き戸、親子戸はヒンジ側の納まりが平部の場合、巾木は縦枠下地の面で止める仕様になります。(ヒンジから巾木までの欠き込みは塗りにて処理してください)</p> <p>※漆喰の場合、アク止めは1回塗った後に十分乾燥させ、さらにもう1回塗って、1~2日乾燥させた後に上塗りを行ってください。</p>				